

「私のこだわり」

コロナ対策やオリンピックに触ればきりがないので、今回は教育相談でよく問題になる「こだわり」について書いてみようと思う。

誰もが生活上、いくつかの「こだわり」を持っている。教育相談では、わが子の持つ強いこだわりが受け入れられず、その改善へのアドバイスを求められることも多々ある。

こだわりは大別して2種類だろう。ひとつは本人のこだわりが、何ら周りの人に影響を与えないものと、もうひとつはそのこだわりがあるゆえに、周りの人に理解されず受け入れられないためにコミュニティに支障がでるものである。支障があるこだわりなら、指導し改善させるか自覚させる必要性が生じてくる。

プライベートな話だが、私の焼肉へのこだわりを知っている人は、私を焼肉には誘ってくれない(笑)。妻と二人での焼肉の時、鉄板の上に乗っているお肉も野菜も二つでないと落ち着かない。3人で行けば3つつつ。焼けた肉を私のお皿に入れてくれるのも拒否している。自分の分は自分で好みに焼いて食べる、これがこだわり。問題なのは、そのこだわりを人に押し付けてしまい、ややこしい人と思われている。やや苦い思いを何度かしているので、このごろは妥協できるようになってきたが、自宅では相変わらずだ。

年間360日は生もの、つまりお造りを必ず食べるというこだわりもある。だが、これは周りの人に気を遣う必要もなく、全く問題はない。焼き鳥店に行く際も、鶏のお造りがあるかどうか確認してから行くことにしている。お魚のお造りもちろん旨いが、鶏の胸、ささみ、ズリのお造りは絶品である。

以前、生徒にその生食を好む理由を尋ねられたことがある。そこで「ライオンが癌になったという話は聞いたことがある？」と生徒に問い直し、「ライオンが癌にならないのは生の肉を食べているから。」と、実はその場での思い付きを話したが、生徒は真剣に納得していた。いい加減なことを言ってしまったと後悔していたら、その後ある生徒が「人間だけでなく哺乳類は癌になるらしい」と誤りを指摘してきた。

コロナ禍はまだ猛威を揮っている。仕事を終えて近鉄のデパ地下でお造りを買い、家呑みする日々が続いている。その日のお造りの品目を、妻に委ねることはないというこだわりもある(笑)。

(丹羽 豊)